

国登録有形文化財

寺田家住宅

貝塚市新町



寺田家住宅全景（写真撮影：立花正治）

国登録有形文化財の建造物の構造及び形式と建築年代

- (1) 主屋：木造二階建、切妻・寄棟・入母屋の複合形式屋根、スパニッシュ棧瓦、銅板腰葺、昭和 11（1936）年建設
- (2) 新宅：鉄筋コンクリート平屋・一部二階建、陸屋根、一部棧瓦葺、昭和 33（1958）年建設
- (3) 内蔵：木造二階建、切妻造、本瓦葺、昭和 11（1936）年建設
- (4) 外蔵：木造二階建、切妻造、本瓦葺、昭和 11（1936）年建設（当初は幕末から明治の建設）
- (5) 納屋：木造二階建、寄棟造瓦葺、昭和 11（1936）年建設
- (6) 本門：木造、薬医門形式、切妻棧瓦葺、両袖片開き扉付、昭和 11（1936）年建設
- (7) 石垣塀：切り石積、総延長 55.7 m、昭和 11（1936）年建設

登録文化財とは？

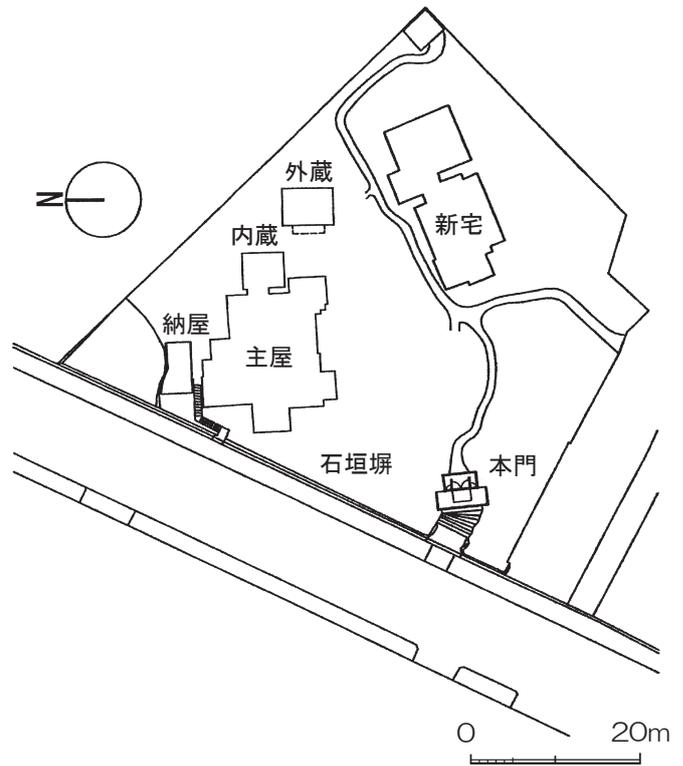
平成 8 年 10 月、文化財保護法の改訂に伴って制定された国の文化財登録制度です。指定文化財では、修理等に対する補助金等支援措置があるものの、平常の利用、管理については細かな規制があります。民家ではこれら規制が居住者に負担となるため、負担を軽減するために制定された制度です。登録文化財は、国、地方自治体指定物件以外を対象としており、現在登録件数は 8000 件以上あります。土木構造物等を含め幅広く登録し、緩やかな保護措置を講ずることで所有者の自主的な保護に期待する制度です。

寺田家住宅主屋ほか計7棟（貝塚市新町）は、「国の歴史的景観に寄与しているもの」および「造形の規範となっているもの」として、平成23年7月25日付で登録有形文化財（建造物）に登録されています。

寺田家は、岸和田を中心として築かれた寺田財閥の一族である楠治が大正初年に分家した家で、「寺楠」の屋号で呼ばれました。楠治は、分家にともない現在の屋敷地に近い麻生郷村海塚の地で鉄工所を営み、大正15（1926）年の資料には「寺田金属工場／鑄造業／従業職工数9名」と記されています。

現在地に屋敷地を求めたのは昭和9（1934）年頃で、新宅をのぞく建造物は昭和11（1936）年に建築されました。当初の敷地は、昭和14（1939）年から同18（1943）年の国道26号線（現在の府道204号堺阪南線）の敷設によって分断され現状の屋敷地規模となりました。当時の屋敷地周辺には工場のほか、従業員が住む社宅や集会所がありました。

寺田財閥関連の建物は、岸和田市南町にある本家寺田家住宅、同市岸城町にある自泉会館、元睦会館、五風荘等がありますが、当家住宅は、貝塚市津田南町の寺田紡績株式会社工場とともに、市内に残る寺田財閥関連の遺構として位置づけられるものです。



（写真撮影：絞野達也）

（1）主屋 1棟 昭和11（1936）年

主屋は敷地の北側に位置し、木造二階建、屋根は切妻・寄棟・入母屋の複合形式、洋風のスパニッシュ瓦の銅板腰葺で、外壁は漆喰壁です。1階は玄関まわりのポーチ・玄関・ホールを経て、応接部、座敷部、居室部の3つの部分から成り、2階は中廊下を介して居室4室で構成されています。ポーチから応接部は外観をスパニッシュ様式とし、開口部には円形やアーチ形のステンドグラス窓などが設けられています。座敷部は応接部とは対照的に和風意匠が用いられ、茶室が設けられています。また、2階座敷には花頭窓（かとうまど）という寺院建築の意匠が用いられています。このように、主屋は多彩な様式を一つにまとめた建造物となっています。

(2) 新宅 1棟 昭和33(1958)年

新宅は敷地の南東に位置し、地元の定兼工務店によって施工された建造物で、昭和33(1958)年の建築です。貝塚市内で最も古い鉄筋コンクリート造で、平屋・一部二階建、屋根は陸屋根(一部棧瓦葺の勾配屋根)で、外壁はモルタル塗です。内部は、東半分が客室部、西半分が居室部と明確に分かれており、外観とは対照的に和風意匠を巧みに採り込んだ構造となっています。



(3) 内蔵 1棟 昭和11(1936)年

内蔵は主屋の東部に接続して建ち、木造二階建土蔵造、屋根は切妻造、本瓦葺とし、内部真壁は漆喰塗、外壁はサイディング(板状の外壁材を張る様式)で、腰部は石張りです。1階入り口は二重構造で、1階背(東)面、2階南・北にそれぞれ窓が設けられています。

(4) 外蔵 1棟 昭和11(1936)年

外蔵は敷地の東中ほどに位置し、木造二階建土蔵造、屋根は切妻造、本瓦葺で、国道26号線の敷設により移築された建造物です。当初の建築年代は、1階入口の庇を支える持ち送り部分の彫刻の意匠により、幕末から明治の建築と考えられています。外部は、足元が石張、腰部が立板壁、上部が銅板壁で、軒部には漆喰蛇腹を廻らせています。1階入り口は三重構造で、内部は床板敷、真壁造漆喰塗で、1階東面と2階南・北にそれぞれ窓が設けられています。



(5) 納屋 1棟 昭和11(1936)年

納屋は敷地の北側に位置し、木造二階建、屋根は寄棟瓦葺で、外壁はサイディングです。主屋よりも低い位置に建てられていることから、上の階が主屋の内玄関に通じる1階、下の階が地下1階となっています。1階には男衆部屋が設けられており、かつては使用人の住居として使用されていました。

(6) 本門 1棟 昭和11(1936)年

本門は敷地西南の隅に位置し、府道堺阪南線204号線に面して、石段を登りきった位置に建っています。木造の薬医門(やくいもん)形式で、屋根は切妻棧瓦葺(一部銅板葺)とします。中央の扉の両脇には潜り戸と竹造りの袖壁が設けられています。建物全体は数寄屋(すきや)風の意匠を基調としていますが、屋根は神社建築の住吉造、軒裏は茅葺屋根を思わせる様式となっています。



(7) 石垣塀 1棟 昭和11(1936)年

石垣塀は敷地西側の府道堺阪南線204号線に面する部分に建っています。長方形の花崗岩によるこぶだし仕上げで、若干反りをつけて垂直に近い角度で積み上げ、頂部には見切石を置いています。北の納屋部分から敷地南西まで重厚で高い塀が連続する構造で、途中に勝手口と本門がアクセント的に配置され、良好な景観を造り出しています。



— 年間の主な公開 —

3月ごろ…春の町家の雛めぐり(雛人形を展示)

5月ごろ…つつじの花がきれいな庭園を公開

9月ごろ…夏から秋のよそおいを感じる企画展

11月ごろ…寺内町と紀州街道まるごと博物館

— 寺田家住宅の見学・お問合せは —

NPO法人 摂河泉地域文化研究所

Tel 072(432)0580 携帯 090-7884-7656

URL <http://www.rinku.zaq.ne.jp/bkemm205/>

かいづか文化財だよりテンプス別冊

貝塚市教育委員会発行

〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

(2,000部作成、印刷単価20.79円)